

このシリーズも、今月で最終回となりました。クラシック音楽は、難しいというイメージを持たれていた方たちが、作曲家のエピソードや楽曲の成り立ちなどをお話したことで、少しクラシック音楽に親しんでいただけましたでしょうか。

最終回の今月は、やはり、私の得意分野のベートーヴェンの「不滅の恋人」のことをお話ししましょう。ベートーヴェンが亡くなった時、ベッドわきの小物入れの引出しから3通の恋文が発見されました。その手紙は、たいへん情熱的で、当時42歳だったベートーヴェンの恋の苦悩が書かれていました。最初の文章は、「私の天使、私のすべて、私自身よ」というもので、その女性に心から愛情を感じていることがわかります。その3通目の手紙の呼びかけに、“我が不滅の恋人よ”とあることから、不滅の恋人が誰なのかという、ベートーヴェン研究者たちの追跡が始まりました。この3通の手紙には、日付と曜日が書かれていますが、年代がありませんでした。まず、手紙の内容と照らし合わせながら、曜日と日付が合致する年代があぶりだされます。その結果、1812年7月6日（月曜日）に2通、7月7日（火曜日）に1通が書かれたことがわかりました。それも、ウィーンではなく、貴族たちの保養地であったチェコのテプリッツという温泉町に滞在していた時の手紙ということがわかりました。音楽学者は、文献研究を徹底的に行うため、この不滅の恋人への手紙から、当時の警察の滞在証明書を調べ、ベートーヴェンが確かにその年、その日付にテプリッツに居たことを突き止めました。

それまでも、ベートーヴェンには、親しくしていた貴族の令嬢や未亡人がいましたので、その中の誰か、例えば、テレゼ・ブルンスヴィックやその妹のヨゼフィーヌなどが、当初、不滅の恋人の候補になっていましたが、現在は、その可能性はないといわれています。では、誰が不滅の恋人なのか。その謎を詳細な検証から突き止めたのは、まず、音楽学者、メイナード・ソロモンでしたが、日本のノンフィクション作家の青木やよひさんがその事実を一つ一つ確認し、彼女の著書に克明に書いています。その不滅の恋人は、アントーニエ・ブレンターノで、彼女はその時、裕福な商人フランツ・ブレンターノと結婚しており、ベートーヴェンとは、いわゆる不倫の関係だったのです。アントーニエと夫は不仲で、その手紙が書かれた1812年、やはり、ベートーヴェンがいたテプリッツ近くの保養地にいたこともわかっています。今は、不滅の恋人は、アントーニエ・ブレンターノとされています。

しかし、この不滅の恋人への熱烈な恋文は、ベートーヴェンの手元で発見されました。つまり、この手紙は出されなかったか、送り返されたかということです。ベートーヴェンは、この手紙を書いたころ、音楽的なスランプに陥っていた時期でした。1812年から数年は、あまりよい作品を書いていません。それは、この失恋も原因の一つであると推測できます。最終回は、ベートーヴェンの人生最大の恋のお話をしました。不滅の恋人には、もう少し、トピックがあるのですが、紙面がつかまりました。またの機会に。

来月からは、また新しいテーマでお目にかかりましょう。